

土器川生物公園と豊稔池ダム遊水公園にみる親水公園のあり方

高松高専 正 員 田村 隆雄

1. はじめに 全国各地でうるおいのある水辺空間の創出が進められている。ここでは土器川中流部に建設中の「生物公園（せせらぎ水路、ひょうたん池）」と全国唯一の石積みマルチプルアーチダムで有名な豊稔池ダムに設けられた「遊水公園」の2つの新しい親水公園のうるおいの演出方法と、安全性について紹介する。

2. 土器川生物公園

2.1. 概要 土器川生物公園は、香川県を流れる一級河川土器川（流域面積約 140km²、流路延長約 33km）の下流部、丸亀市垂水に位置する。面積は約 10ha である。この付近には霞堤が多く見られるとともに「出水（でみず）」と呼ばれる伏流水が豊富に流れており、生物公園はその有効利用を図ったものである。公園からは三国一と称えられる讃岐富士（飯野山 422 m）を見ることが出来る（写真 4、6 参照）。生物公園は現在も造成中であるが、「せせらぎ水路」と「ひょうたん池」がほぼ完成しているので、以下にその2つの施設について概要を述べる。

2.2. せせらぎ水路 せせらぎ水路は土器川流域の豊富な伏流水を汲み上げて利用している。水路の構成としては、水源部（写真 1）、溪流部（写真 2）、中流部（写真 3、4）、下流部（写真 5）の4つから成り立っている。これらは水路幅の変化、岩の配置方法、流量調節で実現している。水源部は池となっておりコイや金魚、中流部にはメダカ、下流部にはニゴイがそれぞれ放されており間近で観察することが出来る。また植物も上流から下流にかけて変化して、溪流部は広葉樹からなる混合林、中流部にはネコヤナギなどの河岸植物、下流部にはススキなどの植物が配置されている。せせらぎ水路に沿って遊歩道が設置されており上流部から下流部にかけての川の変化の様子を楽しむことが出来る。夏には多くの蛍が舞い、訪問者の目を楽しませる。なお、水源部から溪流部にかけてはせせらぎが良く聴こえ、人々の心をなごませる。現時点では水路近傍には安全柵などは設けられていないが、危険防止のための看板は数カ所に設置されている。

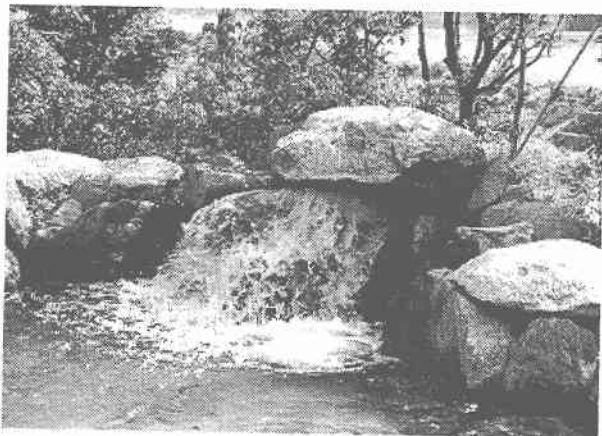


写真1 せせらぎ水路（水源部）

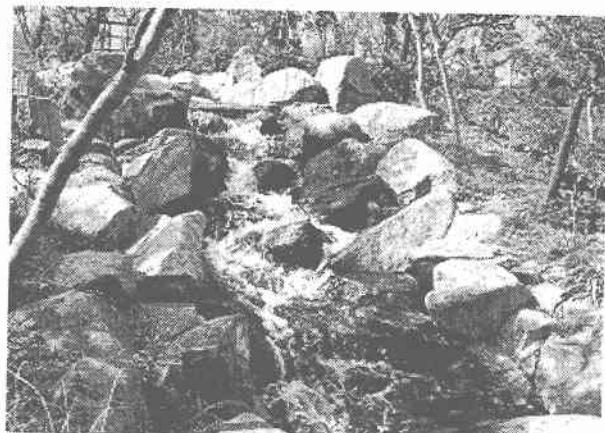


写真2 せせらぎ水路（溪流部）



写真3 せせらぎ水路（中流部）

2.3. ひょうたん池 ひょうたん池は写真6に見られるように湿原を模したものである。池の中には倒木までもが配置されている。基本的には立ち入り禁止区域となるが、将来は近くに観察小屋の設置が予定されており、水鳥などを観察できるようになる。ただし現時点では造成されたばかりなので、野鳥などの生物を見かけることは難しい。なお周辺にはハブが生息しておりその旨を知らせる注意板も見かけることができる。しかしひょうたん池周辺が湿地帯である旨を知らせる工夫も安全柵もないため、何もしらずに踏み入れようものなら足首近くまで簡単に濡れてしまう。



写真4 セセラギ水路（中流部）

3. 豊稔池遊水公園

3.1. 概要 豊稔池遊水公園は、香川県三豊郡大野原町田野々にある、日本唯一の石積みマルチプルアーチダムとして有名な豊稔池ダム（写真7）の改修工事（県営農地防災事業 昭和63年度着手 平成6年3月竣工）に伴って造成された親水公園である。公園はダム正面部と豊稔池に面したダム後背の左岸部の2カ所から成り立っており左岸部は現在も造成中である。



写真5 セセラギ水路（下流部）

3.2. 親水施設 本公園は通常のダム公園と異なり、堰堤正面に広がっている（写真8）。そのためダムからの放流水を正面から間近に見ることができる。また改修前に使用されていた諸施設（土砂吐樋門、中樋取水口、火薬庫）が公園内に展示されているので往時の雰囲気を感じることができる（写真9）。親水公園には不可欠となっている河川への階段も各所に設けられており、水遊びができるようになっている（写真10）。公園内は石積みの堰堤を意識して花崗岩を多用した重厚なデザインとなっているが、灰色の堰堤を引き立たせるためと公園を明るく見せるために明るい配色でまとめられている。公園南側には純和風のあずま屋とトイレが設置されている（写真11）。また周辺には小規模ながら桜並木となっており、春には美しい景色を楽しむことができる。満水時（写真12）でかつ晴天時には快い放流水音が響きわたり、くつろぎの空間を演出している。このように本公園は素晴らしい点が多いが、水辺近辺の安全柵が不足していること、公園を迂回する河川の河床をコンクリートで覆ってしまっていることが欠点である。特に水叩き部（水深70cm～190cm）には簡単に近づく事ができるため、危険防止のためにも早急に安全対策を講じるべきだと考える。

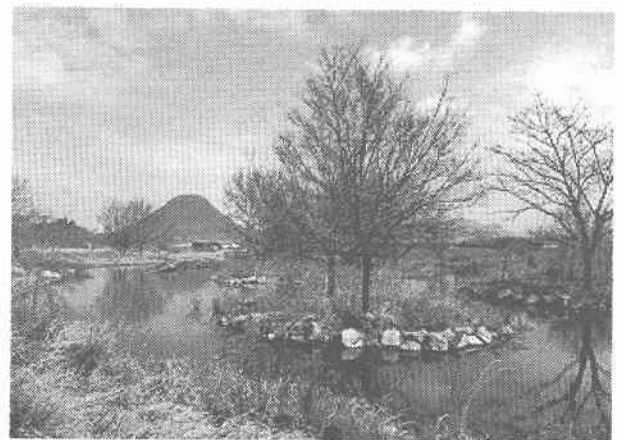


写真6 ひょうたん池

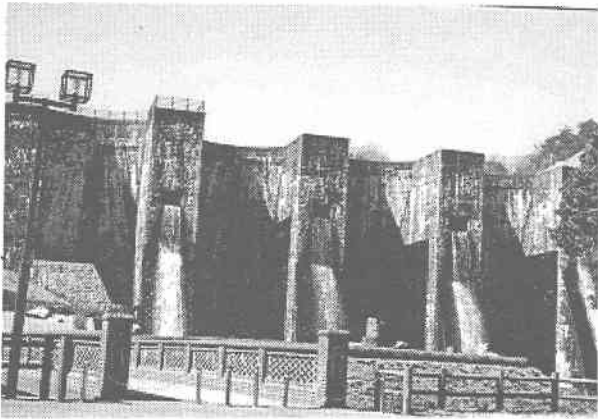


写真7 豊稔池ダム

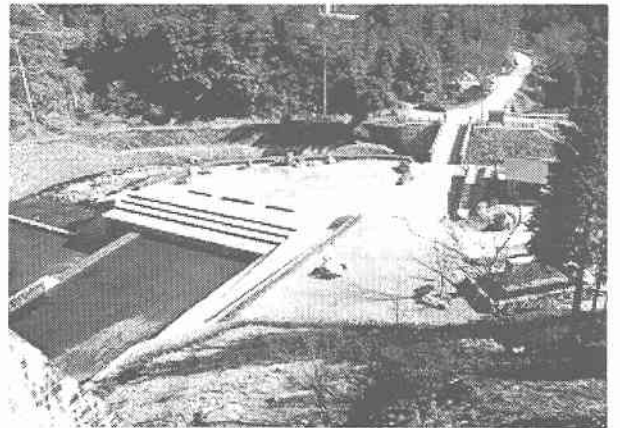


写真8 堰提頂部から眺めた公園全景

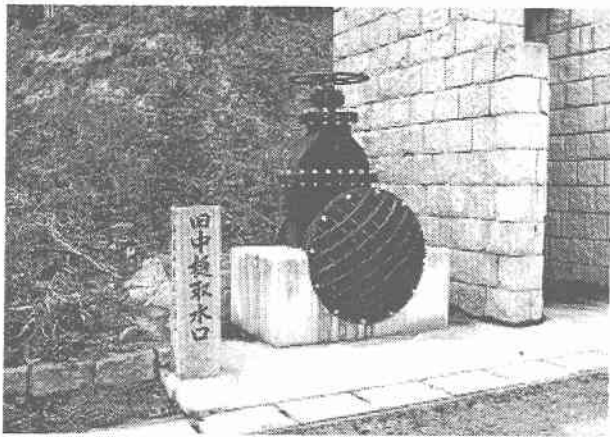


写真9 旧中樋取水口

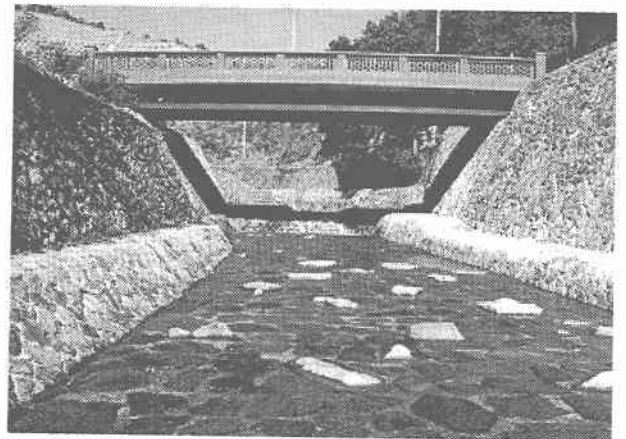


写真10 豊稔橋下の様子

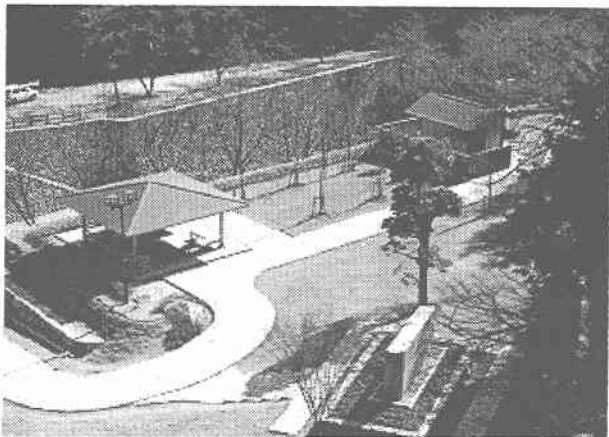


写真11 あずま屋（左）とトイレ

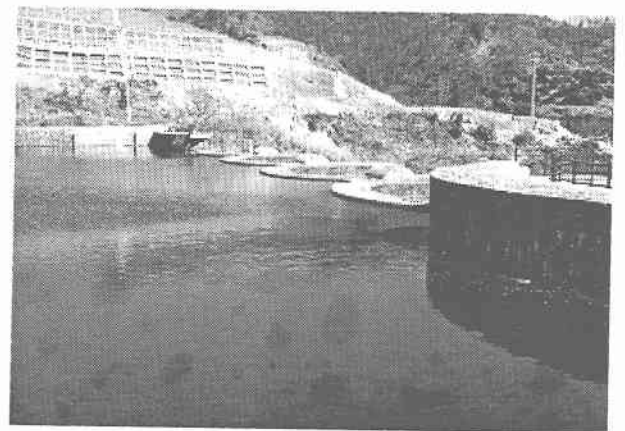


写真12 豊稔池ダム越流部

4. まとめ ここで紹介した2つの公園は、それぞれ違ったアプローチで水辺空間の演出を図っており、それは大変評価できる。しかしながら安全性の確保という点については改善が望まれる。例えばせせらぎ水路の場合、水深の深い場所や、角の多い岩石が水面から露出している箇所を多数見かけるが、特に安全柵などは設けられていない。豊稔池遊水公園の場合には、堰提からの放流水を減衰させるための水叩き部近辺など安全対策が必要と思われる箇所を数カ所見ることができる。ただし、必要以上の安全策は人を水から遠ざけてしまい、周囲の景観をも損ねてしまうことにもなるので注意しなければならない。「うるおい」と「安全性」とをどこまで両立させることができるかが、親水公園の重要な課題であると考えられる。